

2018年3月期 第1四半期決算説明会 Q&A (要旨)

【コンサルティングセグメントの業績について】

Q：コンサルティングセグメントは、ASG の影響を除外すると売上の伸びが弱く、減益に見えるが、要因を説明してほしい。

A：前年度と比較して、コンサルティングセグメントの事業環境が悪化している認識はない。減益は ASG ののれん償却とオフィス移転費用による一時的な要因である。

【第1四半期に発生した金融 IT ソリューションセグメントの不採算案件について】

Q：金融 IT ソリューションセグメントの不採算案件は、新規顧客を獲得するためなどの戦略的な案件なのか、それとも、通常案件のひとつなのか？

A：通常案件の中のひとつである。不採算の理由も特殊なものではない。

Q：不採算案件の影響は、この第1四半期で収束するのか？

また、この不採算案件は、いつ頃に完了する見通しなのか？

A：不採算案件の案件完了までの損失見通し額を、第1四半期に計上した損失額に既に織り込んでいる。本案件は年度内に完了する予定である。

【子会社の ASG の業績への影響について】

Q：ASG の連結業績への影響について、各セグメントに分けて説明してほしい。

A：ASG の四半期ベースの業績への寄与は、売上で約 40 億円、営業利益は若干のマイナスとなる。この金額が、コンサルティングセグメントに約 3 分の 1、産業 IT ソリューションセグメントに約 3 分の 2 寄与している。

Q：受注における ASG の全社業績への影響はどのくらいあるのか？

A：受注残高で説明すると、当期売上予定分の約 123 億円のうち、約 85 億円が ASG の寄与分である。コンサルティングセグメントに約 3 分の 1、産業 IT セグメントに約 3 分の 2 寄与している。

【オフィス移転費用の業績への影響について】

Q：オフィス移転費用についても、各セグメントへの影響を説明してほしい。

A：オフィス移転費用は全体で約 10 億円。コンサルティングセグメントに約 1 億円、金融 IT ソリューションセグメントに約 5 億円、産業 IT ソリューションセグメントに約 2 億円、IT 基盤サービスセグメントに約 3 億円寄与している。

【子会社の（株）だいがう証券ビジネスの業績への影響について】

・本資料は、2018年3月期の業績および今後の経営戦略に関する情報の提供を目的としたものであり、当社が発行する有価証券の投資勧誘を目的としたものではなく、また何らかの保証・約束するものではありません。本資料に掲載されております事項は、資料作成時点における当社の見解であり、その情報の正確性および完全性を保証または約束するものではなく、また今後、予告無しに変更されることがあります。

・本資料のいかなる部分も一切の権利は野村総合研究所に帰属しており、電子的または機械的な方法を問わず、いかなる目的であれ、無断で複製または転送等を行わないようお願いいたします。

Q：だいこう証券ビジネスの1Q決算は、営業利益で約10億円の増加で黒字に転換している。これは、NRI連結での増益要因と考えて問題ないか？

A：問題ない。

【受注環境について】

Q：受注環境のトレンドに変化はあるか？

A：全社的な受注環境トレンドの認識は変わっていない。金融ITソリューションセグメントはキャッチアップが必要だと感じているが、それ以外は堅調で、特に産業ITソリューションは、ASGを除外しても予想以上の受注になっている。

【セグメント別の業績見通しについて】

Q：保険業セグメントの売上高の見通しを説明してほしい。

A：保険業において、既存顧客の投資意欲はやや慎重な印象がある。一方で、第1四半期の減少分は、今後カバーできる期待も持っている。

【資本政策の考え方について】

Q：ROE目標などの資本政策の考え方に変化はあるのか？

A：中期経営計画で12%、V2022で14%前後のROE目標値は変わらない。

以上

・本資料は、2018年3月期の業績および今後の経営戦略に関する情報の提供を目的としたものであり、当社が発行する有価証券の投資勧誘を目的としたものではなく、また何らかの保証・約束をするものではありません。本資料に掲載されております事項は、資料作成時点における当社の見解であり、その情報の正確性および完全性を保証または約束するものではなく、また今後、予告無しに変更されることがあります。

・本資料のいかなる部分も一切の権利は野村総合研究所に帰属しており、電子的または機械的な方法を問わず、いかなる目的であれ、無断で複製または転送等を行わないようお願いいたします。